

助け合える空間があること

Aグループ

団地再生事業

青山7丁目団地再耕プロジェクトの推進

「まちの未来を変える力が大きい場所」

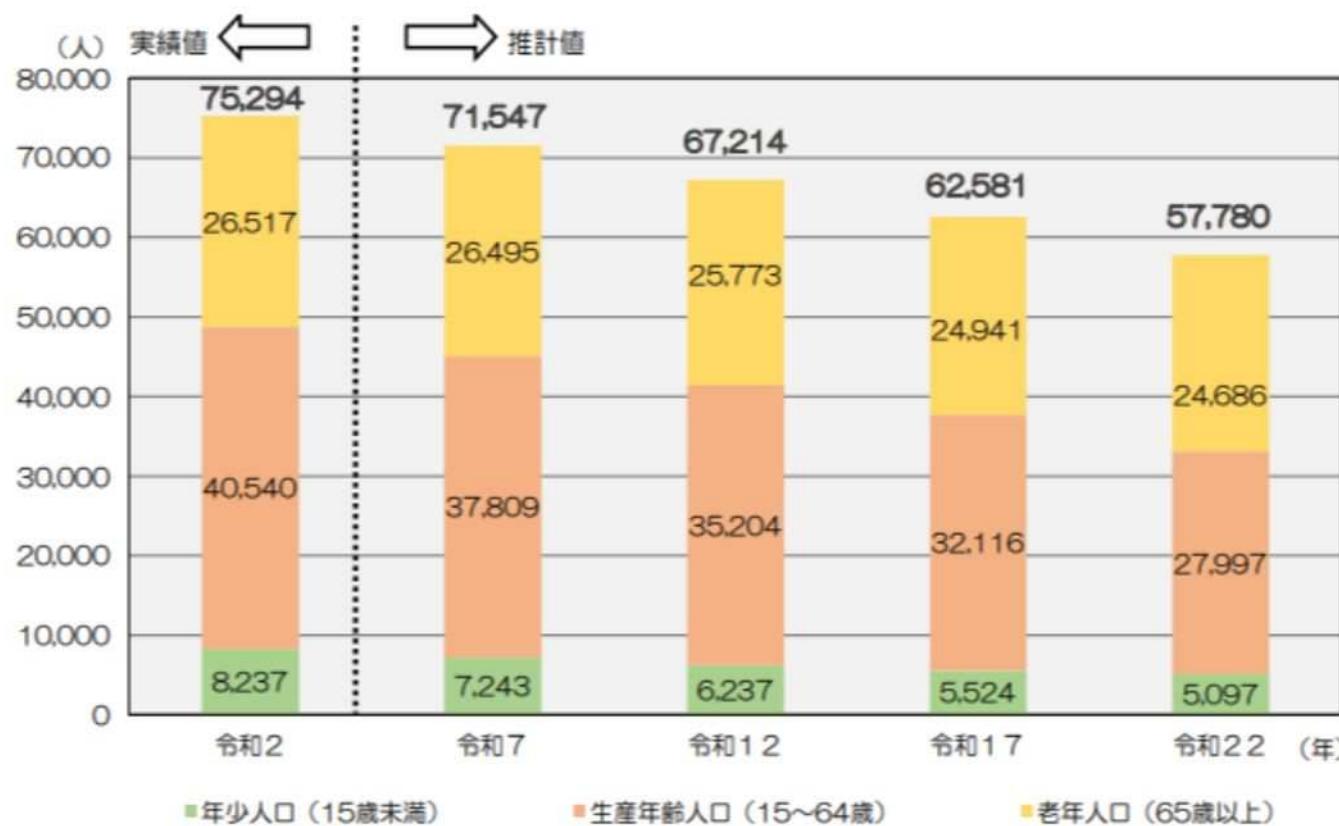




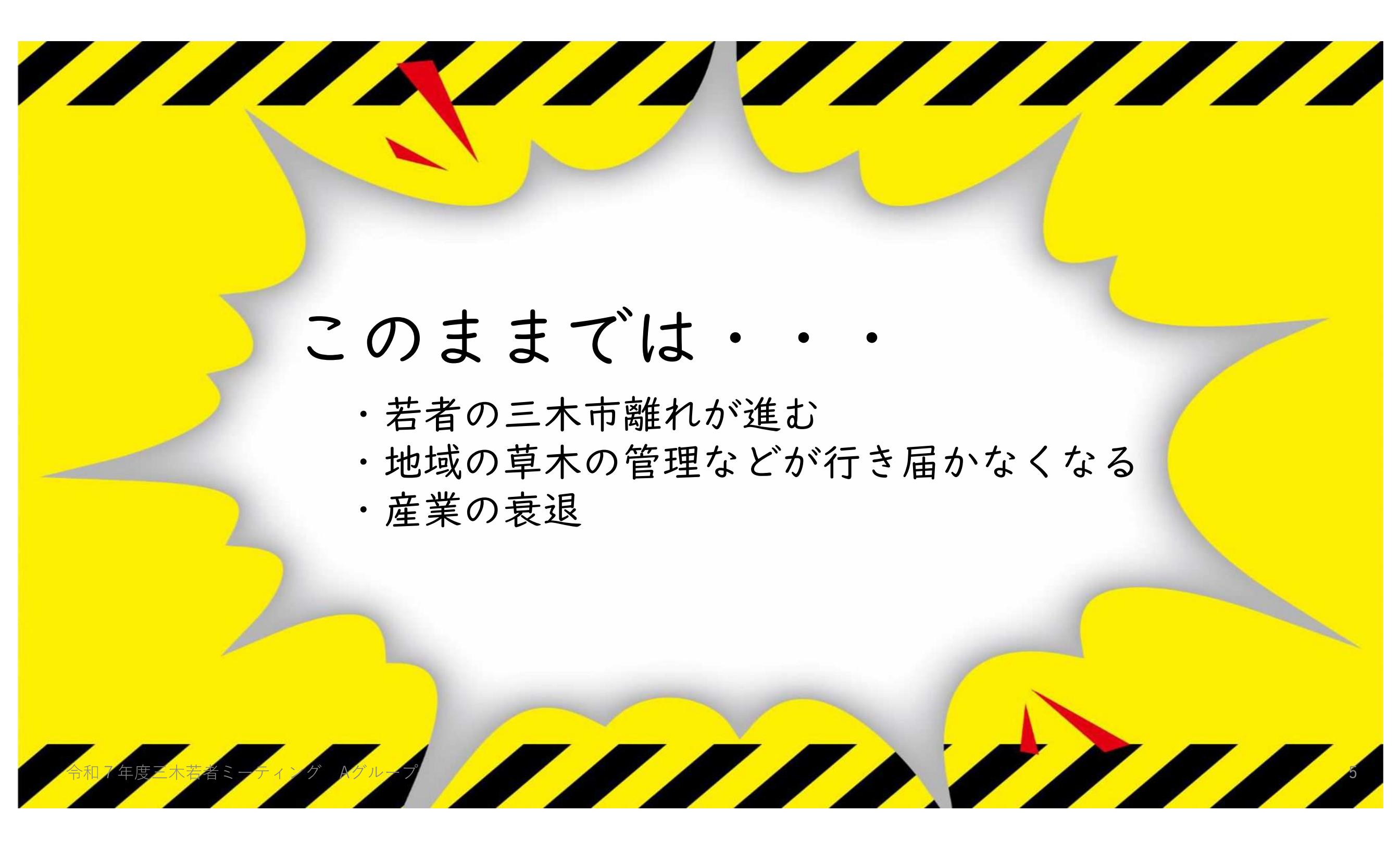
「人を惹きつけるまち」

将来人口

今後も人口減少が続くと予測され、2040年には**57,780人**になると推計されています。



引用：三木市立地適正化計画 2) 将来人口
国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口



このままでは・・・

- ・若者の三木市離れが進む
- ・地域の草木の管理などが行き届かなくなる
- ・産業の衰退

「青山7丁目団地再耕プロジェクト」

高齢者が住み慣れた地域で住み続けられるまち
若者世帯が魅力を感じ住み続けたいまち
持続可能で誰もが安心して住み続けられるまち



暮らしの“足りない”を「おぎなう」

コワーキングスペース
放課後等デイサービス
チャレンジショップ など



ひと・もの・サービスを「つなぐ」



多世代交流を「はぐくむ」

フリースペース
プレイパーク
カフェ など



行政ステーション
総合相談窓口
地域のHUB拠点 など

災害につよいまちづくりにつながる



互いに助け合える空間があるということ



誰もが悩みながら生きている。

生きにくい現在だからこそ、「一人じゃないよ」「あなたの居場所はここにあるよ」という心にゆとりをもてる「**助け合える空間がある**」ということを伝えたい。

映像について

工夫や参考
にしたこと

- ・万博の余韻の強さ
- ・助け合える「場所」ではなく「空間」
場所は1点を特定しますが、この施設から三木市全域へと素敵な空間が広がるよう願いをこめて、「空間」という言葉を使用しました。

映像の長さ

40秒

(理由) 途中で飽きて見るのをやめることがないよう、最後まで見てもらえる長さを心がけました。